

RSウイルス感染症のお話

RSウイルス感染症とは

RSウイルス（respiratory syncytial virus）による急性呼吸器感染症で、主に乳児期の感染・発症が多いですが、年長児や大人でも感染します。

例年冬期に報告数のピークが見られ、夏季は報告数が少ない状態が続いていましたが、近年では夏頃からの患者数の増加傾向が見られ、2019年も8月から報告数が増加していて現在も流行が継続しています。

発症後の特徴的な症状は「鼻水」「咳」「のどの痛み」「発熱」などの風邪の様な軽い症状から、呼吸困難などの重い症状を起こすことまで様々です。特に、新生児や6ヶ月以内の乳児、先天性心疾患や肺の基礎疾患があるお子さんに感染すると、時に肺炎や細気管支炎など、重篤な病態を引き起こすことがあり、注意が必要です。

感染経路

患者さんの咳やくしゃみなどによる飛沫感染と、ウイルスが付着した手指などを介した接触感染が主です。例えば子供が発症したけれどRSと気づかず、保育園や幼稚園に連れて行ったとします。子供が鼻を触った手でオモチャで友達と遊んだりすると、一緒に遊んだ子供や同じオモチャに触れた子供が次々と接触感染を起こしてしまいます。

稀とはいえ、重症化する病気なので鼻水、咳、熱がある時は要注意です。

治療方法

RSウイルス感染症には特効薬はありません。治療は基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。現在のところワクチンはありません。

予防方法

乳幼児期の子育て中の方は、できるだけ人混みを避け不要な外出は最小限に。

飛沫感染対策としてはマスク着用や咳エチケット

発症の中心は0歳児と1歳児ですが、再感染以降では風邪症状や気管支炎症状が多いことから、RSウイルス感染症とは気付かれない年長児や成人がいます。従って、咳等の呼吸器症状を認める年長児や成人は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けることが乳幼児の発症予防に繋がります。また、0歳児と1歳児に日常的に接する人は、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクを着用して0歳児、1歳児に接することが大切です。

接触感染対策としては手洗いや環境のアルコール消毒

子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗い、又はアルコール製剤による手指衛生の励行を行いましょう。



SAITO MEDICAL GROUP



既成概念を突き抜ける私たちの強い信念と、

「患者さんと私たち、自分たちとその家族」

を象徴する2つの円が、ともに生きる姿を表現しています。

共生会通信

VOL.18



2020.1

発行：SAITO MEDICAL GROUP
編集制作：医療法人共生会 企画広報部
〒088-3465 川上郡弟子屈町川湯温泉 4-8-30
TEL 015-483-3121
<https://saitomedical.jp/>

新年のご挨拶

病院長 武井みずほ



新年あけましておめでとうございます。皆様には健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。令和になりはじめてのお正月を迎えました。

昨年は元号も「平成」から「令和」に変わり、日本にとっても歴史的に新しい一歩を踏み出した年となりました。

私も個人的なことですが変化のあった年でした。

出産したことにより家族も増え、多くの方々に支えられて子供連れで仕事にも復帰できましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

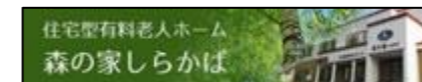
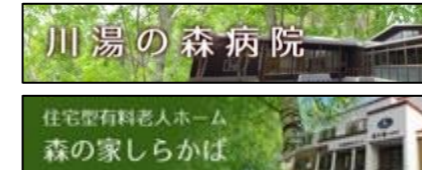
赤ちゃん連れで仕事復帰をしたことで、思わぬメリットもありました。それは、患者様が自然に笑顔になることです。

笑顔になったり、あやしたりすることで顔の筋肉を動かし脳の血流が増加したり、免疫力が高まることわかっています。

今年はこの経験を活かし、患者様が笑顔になる医療を提供できるような取り組みをしたいと考えています。

また一昨年から始めた、医食同源としての取り組みのひとつである豆乳週間も病棟では少しずつ浸透してきています。また昨年からは農園課で育てたハーブを病棟の患者様の口腔ケアに使用する試みもはじめましたのでさらに発展させていきたいです。外来では鍼治療をはじめ、外傷や熱傷・床ずれに対する湿潤療法のご相談、サプリメントなどセルフメディケーションのご相談なども対応しており、少しずつですが認知されるようになっていくことをうれしく思います。今年も勉強を続け皆様のお役に立てるよう努力してまいります。

今後とも引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。



看護部長 角田ひろこ (1階病棟看護師長兼務)



あけましておめでとうございます。令和と年号が変わって新しい年を迎え、この一年が皆様にとってさらに躍進出来る年となる事を願っております。

私が部長兼任師長を命ぜられ半年、至らない点が多く皆様に失礼をしていると、反省の日々です。こうして、なんとかやっていけるのも皆様の支えのお陰だと感謝しています。

川湯の森病院も、高齢化は免れない状況の中にあります。皆様が笑顔で働くことができ、少しでも長くこの病院を支えていただけるような職場であり続ける為に、自身の努力を惜しまず、精進していくつもりです。

年齢を重ねるごとに、精神年齢と体力のギャップが大きくなっているのを感じますが、この川湯温泉が大好き、温泉も大好き、看護の仕事も大好きで今年も頑張らないと、皆様に申し訳ないです。今年も、ひとりひとりそれぞれのペースで元気に仕事ができる職場であると共に、働きたいと思えるような病院づくりを目指していこうと思っています。今年も何卒宜しくお願い申し上げます。



外来看護師長 高橋 薫 (感染管理認定看護師)



新年あけましておめでとうございます。

昨年も大きな災害や社会情勢の変化があり、落ち着かない世相でしたが、皆さまのおかげで当川湯の森病院は変わりなく診療をさせて頂いております。

武井院長の第三子出産、育児をしながらの外来となりましたが、皆さまの温かい励まし等により、賑やかかつ、なごみの外来診療室となりました。

認知症の患者様も増加している昨今ですが、近隣の独居の方や家族より、「最近、物忘れがひどくなっているのが心配。」「このまま、この地域で住み続けたい」などの相談をお持ちになり受診の方も増えました。

武井院長はその患者様に寄り添う形で優しく、よりよい方向性を助言される診療をされており、スタッフの一員でありながら、その温かい気持ちに感動しながら診療の補助をしています。

昨年より「湿潤療法」をホームページでも宣伝し、「痛くない」「早く治る」「きれいに治る」という創傷治癒を促す方法も導入しています。また、昨今の高齢者では肥厚爪や巻き爪で悩んでいる方も多く、院長の診察のもと、足のケア(爪切りもしています)を行っています。傷のこと、足のことなど、悩まれている方は一度、ご相談ください。

昨年同様、川湯の森病院に関わる方々が「受診しやすく、相談しやすい雰囲気作り」「治療に専念できる環境作り」そして、「また、来院してみようかな～と思える関係作り」を目指して努力して参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

2階病棟看護師長 工藤雄一



新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

少子化・超高齢化が急速に進み、治療から予防への変革の時代を迎えています。地域に根差した療養病院に勤める私達の使命を果たすためには、入院患者さんとご家族はもちろんのこと、地域住民や近隣の病院から信頼される専門職としての意識を持たなければなりません。そのためには、スタッフ一人ひとりが患者さんに対する尊敬の念を抱き、心のこもった看護・介護を提供することが大切になります。

今年も2F病棟のモットーである「和を以て貴しとなす」を大切にしながら「患者さんの最善」を皆で考え、より良い病棟づくりをめざしていきたいと考えております。

最後になりましたが、皆様のご多幸を祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



2019年ふり返り



2月、3月と続けてエントランスホールでイベントを開催しました。



4月から図書館バスが月2回、巡回するようになりました。



病棟では、週1回、楽しみながら行う指先運動・脳・心のリハビリ(コラージュ)。

職員には知識を深める定期的な学習会の開催。

10月には、難病連の勉強会にて理事長が講演を行いました。